

Memory viewer（メモリービューワー）の使いかた

この説明書はプロジェクターメモリービューワー機能の取扱説明書です。メモリービューワー機能の操作はこの取扱説明書に従って行ってください。
はじめに、プロジェクター本体の取扱説明書をご覧頂き、プロジェクターの基本的な取り扱い、注意事項をよくお読みください。
説明書に記載されている注意事項は必ずお守りください。
Macintosh には一部の機能が対応していません。

- 目次 -

メモリービューワー機能とは	2
メモリービューワー機能で使用する USB メモリについて	3
USB 端子について	3
メモリービューワーモードのダイレクト起動	4
メモリービューワーモードへの入り方	5
メモリービューワーブラウザウィンドウの表示	6
メニュー項目の選択	7
マニュアルモードでの画像の再生	8
プログラムモードでの画像の再生（Windows 専用）	9
メモリービューワーの終了	9
USB メモリヘデータをコピーする（Windows 専用）	10
USB メモリをフォーマット（初期化）する	11

メモリービューワー機能とは

プロジェクターを使つてのプレゼンテーションや画像の投射を、コンピュータや外部機器を使うことなくプロジェクター自身でこれらができる機能です。

あらかじめ用意された USB メモリに画像を収録し、プロジェクターに設けられた USB 端子に差し込むだけで、これらの画像を投射できます。このため、画像投射のとき、コンピュータや外部機器を持ち運ぶ事なく、投射する場所にプロジェクターと画像を収録した USB メモリを持参するだけで画像の投射が行えます。

Windows でご使用の場合

本機には、メモリービューワーで再生する画像を編集する専用ソフト「Network Viewer 5」（ネットワークビューワー 5）が付属しております。画像、写真データ、および PowerPoint データを、ソフトウェアが持つ豊富な編集機能により、効果的なプレゼンテーション画像を編集する事が出来ます。ネットワークビューワーソフトの詳細につきましては、別冊「ネットワーク取扱説明書 [Windows 版]」の「9. ネットワークビューワー」を参照してください。(p.109)

本機メモリービューワーで再生出来る画像

本機メモリービューワーで再生できる画像・ファイルフォーマットは以下のとおりです。

- ・ビットマップデータ
- ・ Network Viewer 5 [File Converter1、2] ソフトを使用して変換された JPEG ファイル
- ・テキストデータ
- ・ Network Viewer 5 [Program Editor] で作成したプログラムファイル

* データによっては再生出来ない場合もあります。再生できないファイルは、Network Viewer 5 [File Converter1、2] ソフトを使用して JPEG ファイルに変換してください。

メモリービューワーで投射出来るテキストファイルについて

メモリービューワーがサポートするテキストデータの日本語文字コードは「シフト JIS、第二水準まで」のみです。その他の文字コードはサポートしていません。

データのバックアップ保存について

Network Viewer（ネットワークビューワー）で編集するデータおよび USB メモリに収録する大切なデータは、安全のため、前もって別の記録メディアに保存してください。本機能の使用における、データの消失、破損は当社では一切の責任を負いません。



USB メモリの取り扱い・保管上の注意

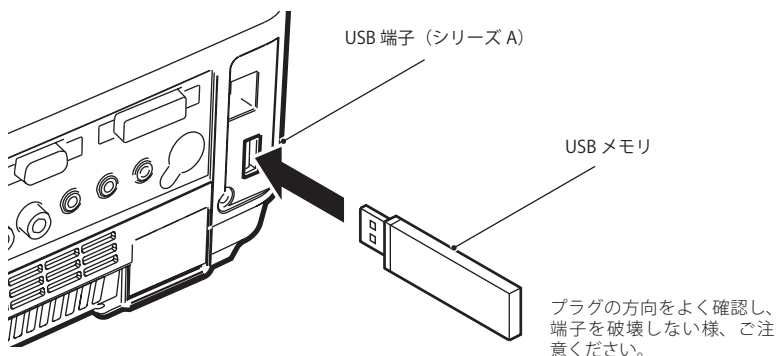
- ・ USB メモリおよびそのキャップを乳児の手の届くところに置かないでください。誤って飲み込むと窒息の恐れがあります。
- ・ 煙がでた場合、または異臭がした場合は直ちに周辺機器の電源を切り販売店までご連絡ください。
- ・ USB メモリを水、薬品、油などに触れさせない様にしてください。ショートや火災の原因となります。
- ・ 本製品のコネクター部（接続部）に異物を入れたり、また、金属物を当てたりしないでください。静電気により内部データが破損、または消去する恐れがあります。
- ・ USB メモリへのデータの書き込み、読み出し中にコンピュータおよびプロジェクターから引き抜いたりしないでください。USB メモリの破損やデータ消失の原因となります。
- ・ 高温・多湿、チリの多い場所、磁気の影響を受ける場所での保管はさけてください。

メモリービューワー機能で使用する USB メモリについて

本機のメモリービューワー機能は USB メモリを使用します。市販品のほか、本機に付属している「Auto Capture」プログラムが入った USB メモリも使用できます。なお、購入後初めて使う USB メモリや他の PC やカメラで初期化した USB メモリは、必ず本機でフォーマット（初期化）してからご使用ください。他の機器でフォーマットされた USB メモリは本機では認識しない場合があります。また、ご使用になる USB メモリは、インジケータ付きの USB メモリをお勧めします。

USB 端子について

USB 端子はプロジェクター後面に用意されています。USB メモリが USB 端子にきちんと挿入されると、USB メモリのインジケータが点灯します。



* USB メモリからのデータ読み出しなど、USB メモリへのアクセス中は USB メモリのインジケータが点滅します。インジケータの点滅中は USB メモリを抜かないでください。アクセス中に USB メモリを抜くと、USB メモリ内のデータが破損する原因となります。

USB メモリの取り付け、取り外しの注意

USB メモリのプロジェクターへの取り付け、取り外しは以下の事にご注意ください。

- ・インジケータ付きの USB メモリの場合、USB メモリをプロジェクターに取り付けたり、プロジェクターが USB メモリのデータの読み出しを行っているときに、USB メモリのインジケータが点滅します。インジケータの点滅中は USB メモリを取り外さないでください。
- ・インジケータが付いていない USB メモリは、プロジェクターが USB メモリにアクセスしているかどうかを判別できません。USB メモリの取り外しは、メモリービューワーを終了させた後、またはプロジェクターの電源を切った後に行ってください。
- ・プロジェクターへの USB メモリの抜き差しは頻繁に行わないでください。
- ・USB メモリを差し込んだ後、約 5 秒経ってから抜いてください。抜いた後再び差し込むときは約 5 秒経ってから差し込んでください。USB メモリの取り付け取り外しのとき、プロジェクターはこれらの準備処理を行っています。

メモリービューワーモードのダイレクト起動

USB メモリを USB 端子に挿入するとメモリービューワモードがダイレクト起動し、プロジェクターの入力モードが「ネットワーク」に自動で切り換わり、USB メモリのルートディレクトリに保存されている画像が投影されます。ダイレクト起動時のプロジェクターの状態と制限は以下のとおりです。

- * ネットワークは、「LAN モード選択」で最後に選択した LAN モードに設定されます。
- * USB メモリのルートディレクトリに画像がない場合は、メモリービューワーブラウザウィンドウが表示されます。
- * ネットワークキャプチャー機能、ネットワークビューワー機能、司会者機能の動作中は、メモリービューワーモードのダイレクト起動は動作しません。
- * メモリービューワーモードで USB メモリを挿入したまま電源の切・入を行うと、メモリービューワーモードで起動し、USB メモリに保存されている画像が投影されます。

メモリービューワーモードでリモコンの [AUTO SET/CANCEL] ボタンを押すと、6 ページのメモリービューワーのブラウザウィンドウが表示されます。

入力モードを切り換えずに USB メモリを抜いた場合は、USB メモリを挿入する前の入力モードに戻ります。

リモコン



[ご注意]

- ☞ USB メモリへのアクセス中は、電源を切ったり USB メモリを抜いたりしないでください。データが破壊される場合があります。インジケータが付いている USB メモリの場合、アクセス中は USB メモリのインジケータが点滅しますのでご確認ください。インジケータが付いていない USB メモリをご使用の場合には、メモリービューワーを終了させてから電源を切ってください。
- ☞ メモリービューワーが起動していないときは、プロジェクターの電源状態に関わらず、USB メモリを抜き差しすることができます。
- ☞ USB メモリを抜いてすぐ挿入するとダイレクト起動しないことがあります。
- ☞ ネットワークビューワー機能および司会者機能は、Mac OS には対応していません。

メモリービューワーモードへの入り方

USBメモリが既にUSB端子に挿入されていて、あらためてメモリービューワーモードへ入る場合：

1. プロジェクターの「入力」メニューで、プロジェクターの入力モードを「ネットワーク」に設定します。ネットワーク接続待機画面が表示され、ネットワークでの投影準備が出来たことを示します。
2. プロジェクターの「ネットワーク」メニューで「LANモード選択」を選択し、[SELECT] ボタンを押します。[ポイント▲▼] ボタンで希望するLANモードを選択して [SELECT] ボタンを押します。"しばらくお待ちください"のメッセージが表示され、処理が完了するとネットワーク接続待機画面が表示されます。
3. プロジェクターの「ネットワーク」メニューで「メモリービューワー」を選択して [SELECT] ボタンを押し、「スタート」を選択して [SELECT] ボタンを押します。



4. メインメニューが消えて、USBメモリのルートディレクトリに保存されている画像が投影されます。
* USBメモリのルートディレクトリに画像がない場合は、メモリービューワーブラウザウィンドウが表示されます。

メモリービューワーブラウザウィンドウの表示

メモリービューワーモードで [AUTO SET/CANCEL] ボタンを押すと以下のメモリービューワーのブラウザウィンドウ「サムネイル」または「ファイル名一覧」が表示されます。

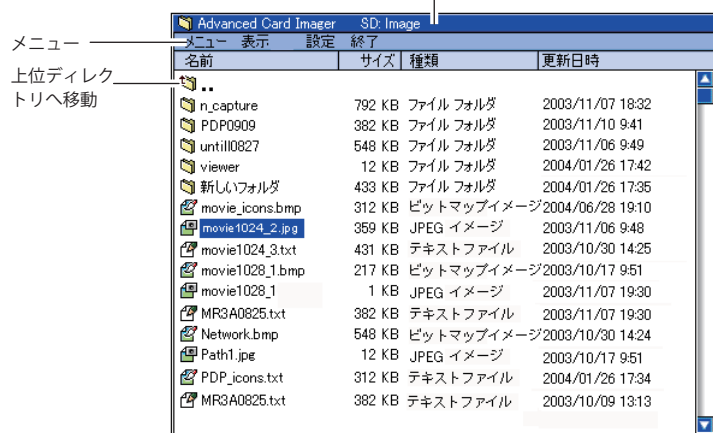
サムネイル表示

現在のディレクトリパスを表示



ファイル名一覧表示

現在のディレクトリパスを表示



*ブラウザウィンドウは、メモリービューワー実行中に、プロジェクターの「メモリービューワー」メニューの「スタート」を選択することでも表示できます。

*サムネイル画像がすべての描画を完了する前に、[ポイント ▲▼◀▶] ボタンを押して画像を選択することもできます。(ポイントボタンが押された時点で新たなサムネイル画像の描画が中断されますが、操作は有効です)

メニューツリー

メニュー	サブメニュー	説明
メニュー	マニュアルモード	再生するファイルを個別に選択するモードです 表示可能なファイルは、JPEG(jpg)、ビットマップ(.bmp)、テキスト(.txt) ファイルです。対応外のファイルは表示できません
	プログラムモード	Program Editor で作成したプログラムファイル(.dpf)を選択するモードです * Mac OS には対応していません。
	フォーマット	USB メモリを初期化します
表示	サムネイル	ファイル名をサムネイル付きでブラウザウインドウに表示します
	ファイル名一覧	ファイル名のリストをブラウザウインドウに表示します
設定	日本語 <>	メニューの言語（日本語・英語）を選択します。◀▶ ボタンで設定します
	3 秒 <>	自動再生時の画像表示時間を設定します。◀▶ ボタンで設定します。（3～240 秒の範囲内）
	0 回 <>	自動再生時の再生回数を設定します。◀▶ ボタンで設定します。（0～255 回の範囲内）。0 はエンドレス再生の設定です
終了		メモリービューワーを終了します

アイコンの説明



フォルダアイコンです。[SELECT] ボタンでフォルダ内のファイルを表示します



上位ディレクトリアイコンです。[SELECT] ボタンで上位ディレクトリへ移動します



JPEG ファイルアイコンです



ビットマップファイルアイコンです



テキストファイルアイコンです



プログラムファイルアイコンです（プログラムモードで再生可能）



メモリービューワーがサポートしないファイルです。

メニュー項目の選択

1. [AUTO SET/CANCEL] ボタンを押すと、カーソルがファイル選択ウインドウからメニュー項目へ移動します。
2. [ポイント] ボタンを使用してサブメニューを選択し、[SELECT] ボタンを押します。キャンセルは、[AUTO SET/CANCEL] ボタンを押します。

ご注意

*メモリービューワーで使用可能な画像解像度は、8191 x 8191 ドットまでです。

*テキストファイルは、全角 55 文字 / 1 行で 1 万 5 千行まで表示可能です。

マニュアルモードでの画像の再生

1. メモリービューワーのブラウザウィンドウから、「メニュー」-「マニュアルモード」を選択し、[SELECT] ボタンを押します。
2. [ポイント] ボタンを使用し、表示したいファイルを選択します。[SELECT] ボタンを押すと、スクリーン上に選択した画像が再生されます。
3. 画像再生中に、以下に割り当てられた [ポイント] ボタンを使用して表示画像を切り換えます。

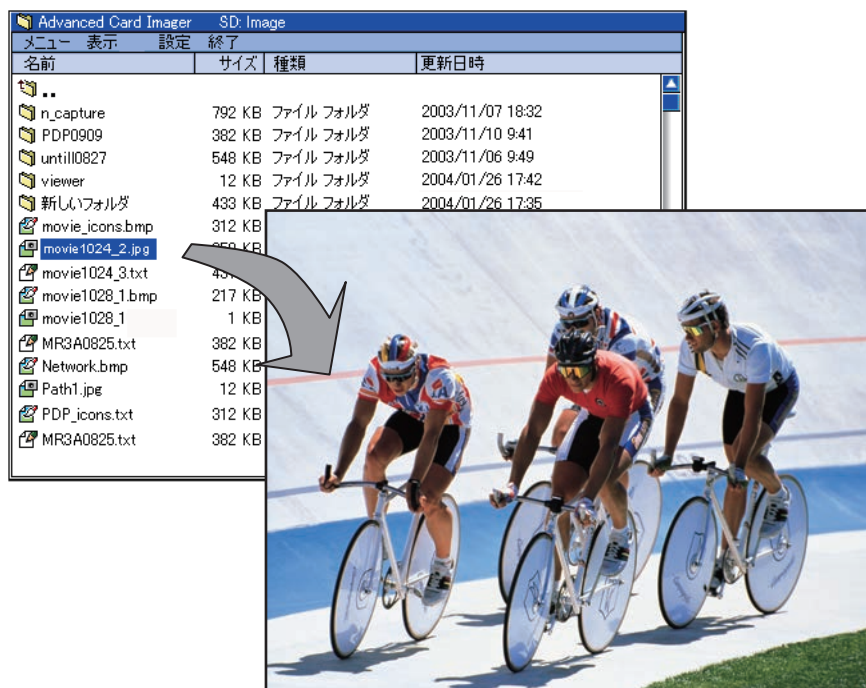
ポイント 動作

- ▼ 次画像の手動再生
- ▲ 前画像の手動再生
- ▶ 自動再生の開始 *
- ◀ 自動再生の停止 *

- * 自動再生での画像表示期間や繰り返し回数はブラウザウィンドウのメニュー「設定」より行います。
- * [ポイント ◀▶] ボタンは、テキストファイル表示中はページスクロールキーとして働きます。

注意：

メモリービューワーの動作中は、ネットワークキャプチャー、ネットワークビューワー機能は利用できません。



- * テキストファイルなどの縦長の書類を上下にスクロールするには、[ポイント ◀▶] ボタンを使用します。

プログラムモードでの画像の再生 (Windows 専用)

1. メモリービューワーのブラウザウィンドウより、「メニュー」 - 「プログラムモード」を選択し、「SELECT」ボタンを押します。ルートディレクトリ直下の DispParam フォルダ内のプログラムファイル (.dpf) が表示されます。
*ルートディレクトリ直下に DispParam フォルダがない場合には、フォルダ名のリストが表示されます。マニュアル操作でプログラムファイルを保存している DispParam フォルダを探して表示します。
2. ポイントボタンを使用しプログラムを選択し、[SELECT] ボタンを押します。確認ダイアログが表示されるので、「はい」を選択して [SELECT] ボタンを押します。自動再生が開始され、スクリーン上に選択したプログラムが指定する画像が再生されます。この時の画像表示期間や繰り返し回数はプログラムファイルに設定されています。
3. 画像再生中に、以下に割り当てられたポイントボタンを使用して表示画像を切り換えることができます。

ポイント	動作
▼	次画像の手動再生
▲	前画像の手動再生
▶	自動再生の開始
◀	自動再生の停止

メモリービューワーの終了

以下のいずれかの手順に従い、メモリービューワー機能を終了します。

• プロジェクターメニューからの終了

1. プロジェクターの「ネットワーク」メニューで「メモリービューワー」を選択し、[SELECT] ボタンを押します。
2. [ポイント ▲▼] ボタンで「戻る」を選択して [SELECT] ボタンを押します。

• メモリービューワーモードからの終了

1. メモリービューワーで画像表示中に [AUTO SET/CANCEL] ボタンを押します。ブラウザウィンドウが表示されます。また、プロジェクターメニューの「メモリービューワー」で「スタート」を選択しても同様にブラウザウィンドウが表示されます。
2. ブラウザウィンドウが表示されたら、再度 [AUTO SET/CANCEL] ボタンを押します。カーソルがメニュー項目に移動します。
3. [ポイント ◀▶] ボタンで「メニュー」 - 「終了」を選択し、[SELECT] ボタンを押します。

*メモリービューワーの動作中はネットワークキャプチャー、ネットワークビューワー機能は利用できません。

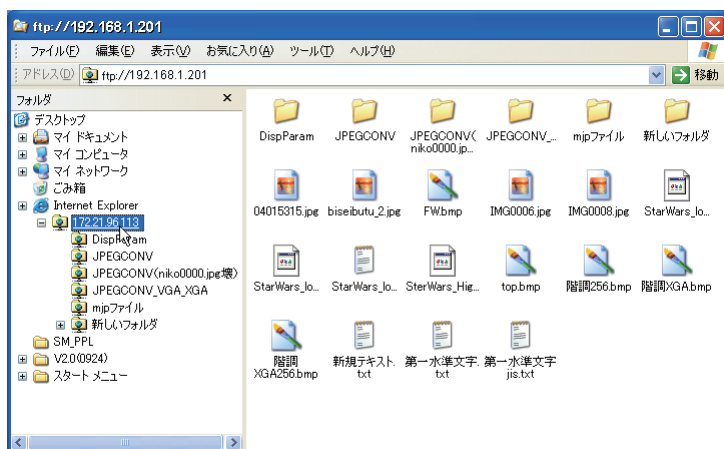
プログラムモードご使用上の注意

- *プログラムファイル (.dpf) は Program Editor を使用して作成します。詳細は別冊の「ネットワーク取扱説明書 [Windows 版]」の「プログラムファイルを作成する [Program Editor]」(☞ p.115) を参照ください。
- * DispParam フォルダは Program Editor によって作成されたプログラムファイルを保存時に自動的に作成されます。詳細は別冊の「ネットワーク取扱説明書 [Windows 版]」の「プログラムファイルを作成する [Program Editor]」(☞ p.115) を参照ください。
- *プログラムファイルを手動で USB メモリ内へコピーするときは、DispParam フォルダへ保存してください。DispParam フォルダがない場合には、新しく DispParam フォルダを作成してください
- *プログラムモードではプログラムファイルおよびフォルダのみを表示します。その他のファイルは表示しません。

USB メモリへデータをコピーする (Windows 専用)

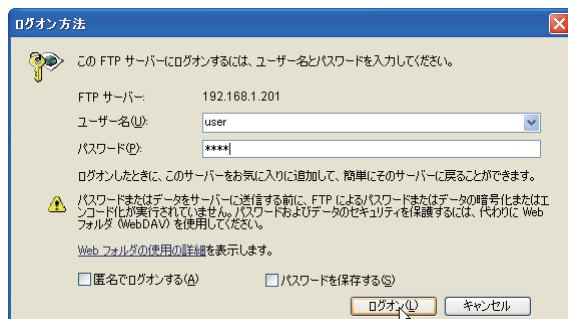
Network Viewer 5 [File Converter1、File Converter2] を使用して変換した投映用データを PC から USB メモリへネットワークを通じてコピーする方法について説明します。

1. PC のエクスプローラーを起動し、アドレス欄に USB メモリが装着されたプロジェクターの IP アドレス、例えば、「ftp://192.168.1.201」をタイプします。
以下のように USB メモリ内の内容が表示されます。
2. 投映データを USB メモリへコピーします。



注意

プロジェクターにネットワーク暗証番号が設定されている場合には、以下の認証ウィンドウが表示されます。この場合、ユーザー名には「user」、パスワードにはプロジェクターのネットワーク暗証番号を入力します。
*ユーザー名は必ず「user」を入力します。



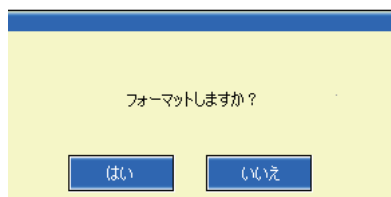
* Network Viewer 5 [File Converter 1] を使用して変換したファイルを USB メモリを装着したプロジェクターへ直接出力することも可能です。詳細は別冊「ネットワーク取扱説明書 [Windows 版]」のネットワークビューワー「出力先、変換モードの設定」(☞ p.113) をご覧ください。

* Program Editor を使用して作成したプログラムファイルを USB メモリを装着したプロジェクターへ直接出力することも可能です。詳細は別冊「ネットワーク取扱説明書 [Windows 版]」の ネットワークビューワー「プログラムファイルを作成する」(☞ p.115) をご覧ください。

USB メモリをフォーマット (初期化) する

購入後初めて使う USB メモリや他の PC やカメラで初期化した USB メモリは、必ず本機でフォーマット (初期化) してからご使用ください。他の機器でフォーマットされた USB メモリは本機では認識しない場合があります。

1. メモリービューワーモードで、リモコンの [AUTO SET/CANCEL] ボタンを押します。ブラウザウィンドウが画面上に表示されます。また、画像表示中にプロジェクターの「メモリービューワー」メニューで「スタート」を選択しても、同様にブラウザウィンドウが表示されます。
2. ブラウザウィンドウが表示されたら、再度 [AUTO SET/CANCEL] ボタンを押します。カーソルがメニュー項目に移動します。
3. [ポイント ▲▼] ボタンで「メニュー」-「フォーマット」を選択し、SELECT ボタンを押します。フォーマット確認ウインドウが表示されます。
4. [ポイント ◀▶] ボタンで「はい」を選択し、[SELECT] ボタンを押してフォーマット (初期化) を開始します。



約 1-2 秒程度でフォーマットが終了します。

[ご注意]

☞ フォーマット中はプロジェクターの主電源を切ったり、USB メモリを取り出さないでください。データが破壊される場合があります。フォーマット中は USB メモリインジケータが点滅します。

商標について

Windows 2000, Windows XP, Windows Vista, PowerPoint は米国および、その他の国における登録商標または、商標、商品名です。

Mac, Mac OS, および Macintosh は米国その他の国で登録された Apple Computer, Inc. の商標です。

説明書に記載のメーカー名および商品名は各社の登録商標です。

* 本書の記載内容は予告なく変更する場合があります。

* 説明書に記載の図面形状、および、画面等の表示は実際のものと異なる場合があります。



この取扱説明書の印刷には、植物性大豆油インキを使用しています。

メモリービューワー取扱説明書
1LG6P1P0384-- (KG5CC)

SANYO

三洋電機株式会社